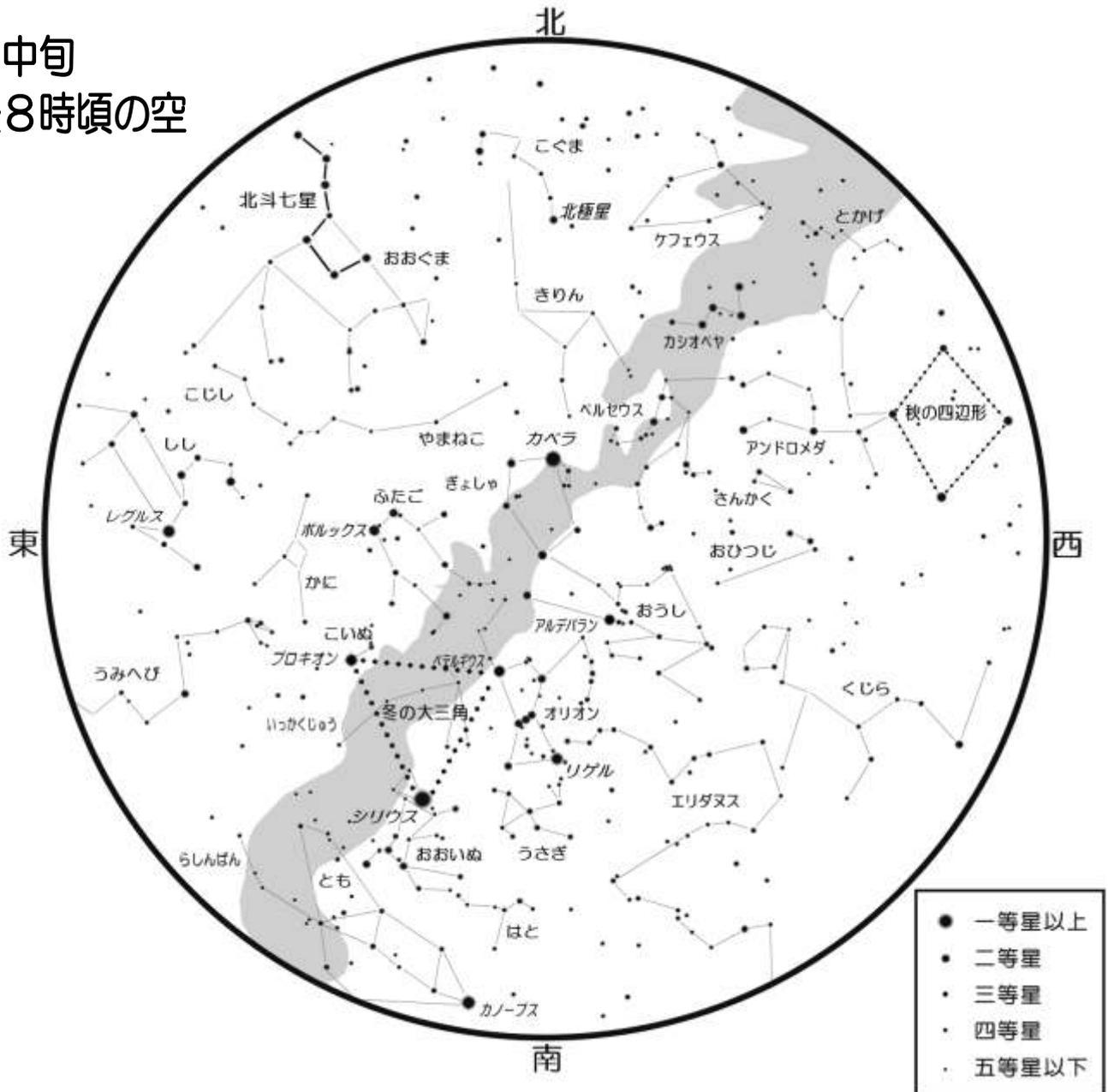


阿南市科学センター 2月の星空案内

2月中旬
午後8時頃の空



冬は明るい一等星が多いことが知られていますが、徳島県から見える一等星は全部で8個あり、そのうちオリオン座のベテルギウス、リゲル、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウス、おうし座のアルデバラン、ぎょしゃ座のカペラ、ふたご座のポルックスの7個は空を見上げるとどなたでも簡単に見つけることができます。しかし8個目の一等星、りゅうこつ座のカノープスは南の空の非常に低いところにありますので、南の空に山や建物の無い開けた場所での観察が必要となり、加えて低空まで澄み渡った日でないとなかなか見つけることができない星です。昔から見ると長生きができる「長寿の星」として伝承されてきたことも、この星がいかに見つけにくいかがお分かりいただけるでしょう。

さて、今月はそんな難物カノープスを観察するチャンスでもあります。2月中旬ごろなら、上の図を参考に午後8時から9時くらいころ、南の低空まで開けた場所でカノープス探しにチャレンジしてみましょう。もし、見ることができれば、皆さんも長生きできるかもしれません。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

2月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	下弦の月	●新月	☾上弦の月	○満月
見える日	8日	16日	23日	—

惑星

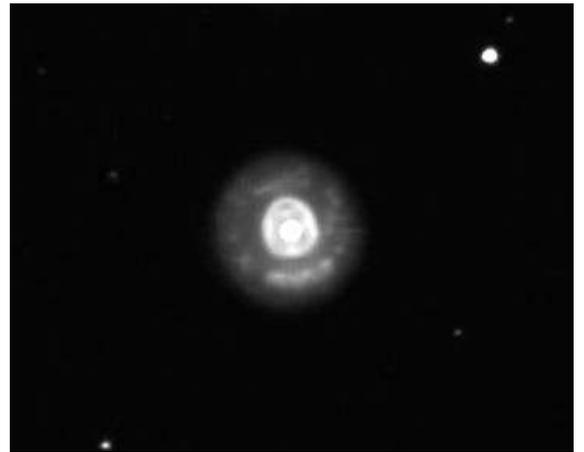
水星 ●	金星 ●	火星 ●	木星 ●	土星 ●
太陽に近く観察は難しい	太陽に近く観察は難しい	明け方、南東の空に見える (1.1等→0.9等級)	明け方、南の空に見える (-2.0→-2.1等級)	明け方、東の低空に見える (0.4等級)

天文館夜間天体観望会 2月の見もの

ふたご座のエスキモー星雲

現在、頭の上近くには冬の星座の代表でもある「ふたご座」を見ることが出来ます。この「ふたご座」には、天の川がかかっていることから、多くの面白い天体を見ることが出来るのですが、その中でもその形が最も奇妙なのが、今回ご紹介する「エスキモー星雲」です。この星雲は、小型の天体望遠鏡では、星のピントをぼかしたようにしか見えませんが、大口径の望遠鏡で倍率を200倍程度まで上げると、まるで「だんご鼻」のエスキモーが笑っているような姿で見ることが出来ます。

この天体の正体は、星が死んだ後に残った残骸で、このような天体のことを一般的に「惑星状星雲」と呼んでいます。今月は、この星雲のほかに、まだまだ良く見える木星や、冬の天体の代表、「オリオン座大星雲」などを大型望遠鏡で観察していきます。



今月の天文現象

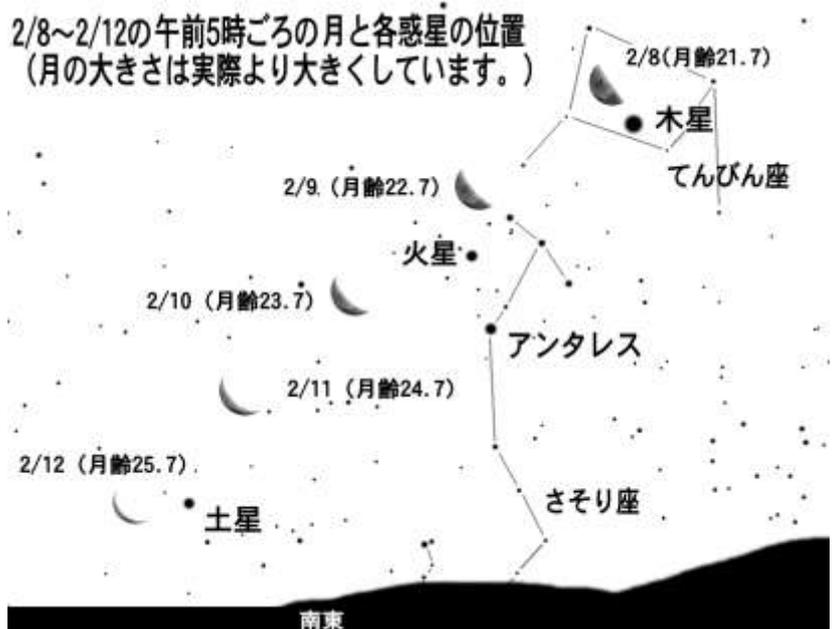
2月8日～12日 明け方の東の空で月が三惑星に接近

今月8日から12日にかけて、明け方の南東の空で月が木星、火星、土星の明るい惑星たちと次々ランデブーしていく様子を観察することができます。

まず、2月8日にはマイナス2等級とひときわ明るい木星に接近します。この日の両者の間隔は3.5度程度ですので、小さな双眼鏡でもあればさらに美しく観察することができます。

その後2月9日～10日にかけては、この夏、地球に大接近する火星の横を月が通り過ぎていきます。現在、火星はその赤い色や明るさが、近くにあるさそり座の一等星「アンタレス」とまるで双子の星のように輝いておりますので、どちらが火星か右の図を参考に探してみてください。

そして、12日には月齢25.7の細い月が、約5度の間隔で輪をもつ惑星、土星と接近します。午前6時ころにもなりますと、少しずつ明るくなる空のグラデーションの中、土星と月が非常に美しい眺めとして見られることでしょう。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600